

地域に生きづく国有地（５）港南緑水公園

（国有地は、国の庁舎等から地域に役立つ施設等に姿を変えて、地域貢献しています。）

港南緑水公園

【東京都港区港南 4-7-47

19,859.44 m²】



幅広い年齢層が集える広場



登録制のドッグラン



《財産の沿革》

この地は、もと陸上自衛隊芝浦分屯地でしたが、平成12年に同分屯地が廃止されたため、財務局が利活用を検討する中、港区の要請を受け、公園敷地として利用（売却・無償貸付）いただくべく諸手続き（国有財産関東地方審議会の了承を得る等）を経て、平成17年3月1日付外で契約したものであります。

《施設の概要》

- ・平成24年4月全面開園、整備費 7億8000万円
- ・ドッグランの登録者数 約800名（港南緑水公園、芝浦中央公園2園共通）
- ・コンセプト・・・住民参画で7回に亘る公園計画の検討をし、「水辺空間、自然とのふれあいの場の創出」「子どもから高齢者までが遊び、集う公園」「コミュニティ形成の拠点」「緑や自然へのニーズの対応」「防災機能の拡充」を目指しています。

《地域への貢献・効果（区担当の方への取材より）》

- ・地区内には災害時に避難できるような広い場所が少ない中、避難想定人数6750人の避難場所であり、災害対応施設（マンホールトイレ・かまどベンチ）があること、想定人数の3日分の生活用水を確保していること、水辺に接する特性を生かし、災害時には運河からの物資運搬を行えることが周辺住民へ安心感を与えられていると感じています。
- ・広場や自然観察池、多くの遊具を有し、コンセプト通り子どもから高齢者まで多くの利用者から愛される公園となっています。
- ・同公園は全面開園が今年4月であるため、まだイベント等の実績は少ないものの、既に花火大会が行われたり、周辺住民の防災訓練の場所として利用されたことから今後もより一層地域に生きづく公園になることを期待しています。

当時(平成16年頃)



現在

